

最近のシクラメン品種の特性

1. 試験のねらい

最近栽培されているシクラメンの代表的な36品種を栽培し、生育、花色の揃い及び耐病性の面から生産上有利な品種を明らかにする。

2. 試験方法

- (1) 供試品種 表-1のとおりハーレカイン他35品種。なおNo.1～11はユサカタのタネ、No.12～22はユミヨシ、No.23～32はタキイ種苗ユ、No.33～36はユサンド・シード。
- (2) 試験規模 各品種 100粒は種、30鉢仕上げ
- (3) 栽培概要 サカタ及びミヨシの種子は12月22日に、タキイの種子は1月10日に、サンドシードの種子は2月1日にメトロミックス350で406穴のセルトレイには種した。サカタ及びミヨシの苗は3月7日に、タキイの苗は3月28日に、サンドシードの苗は4月18日に赤土、ピートモス、籾殻堆肥、腐葉土＝4：2：2：2の体積比にヨウリン3g/ℓ、重焼リン2g/ℓ及び炭酸カルシウム1g/ℓを加えた用土で2号鉢に鉢上げした。その後同用土で、サカタ及びミヨシは4月26日に、タキイは5月17日に、サンドシードは6月7日に3.5号鉢に、サカタ及びミヨシは7月26日に、タキイは9月1日に、サンドシードは9月21日に5号鉢に、サカタ及びミヨシを中心に生育の旺盛な品種を10月7日に6号鉢にそれぞれ鉢替えした。
- (4) 調査方法 は種後8週目に発芽率、12月19日に葉数、短小茎数、花数（花らいが着色したものを含む）、塊茎長、葉厚、SPAD値（ミノルタ製のSPAD-502の値）、花色（JHSカラーチャート番号）、花色のばらつき（花色や模様の異なる株の割合）、灰色カビ病及び炭そ病の発生状況について調査した。

3. 試験結果および考察

- (1) 発芽率は概ね70％以上だった。
- (2) 鉢替えの遅れと、夏季の高温で生育が停滞したことにより、全体的に葉数が不足したが、開花時に形態、花色、病気の発生等について調査したところ有望な数品種を得た。1戸当たりの生産数量が1万鉢を超える現状においては、容易に葉数が増え、花色の揃いが良いことは生産上有利であるため、生産販売上必要で、代表的な花色の4品種を選定した。オルフェウス（鮮赤色）は葉数花数が多い。ラベル（明赤色）は花色が鮮やかで室内でも引き立つ。ボロディン（白色）は花数が多く揃いが良い。ブライトローズジュリア（ピンク色）は鮮やかなピンク色で揃いが良い。さらにこれらは発芽率が高く、病気の発生も少なかった。

4. 成果の要約

最近栽培されているシクラメンの代表的な36品種の特性を検討した。その結果、オルフェウス（鮮赤色）、ラベル（明赤色）、ボロディン（白色）、ブライトローズジュリア（ピンク色）を生産サイドに極めて有利な品種として選定した。

（担当者 花き部 和久井 隆）

表-1 品種特性

No.	品種名	鉢径 (号)	発芽率 (%)	葉数 (枚)	幼葉 (個)	花数 (本)	塊茎長 (mm)	葉厚 (mm)	SPAD値	花色	花の大きさ (mm)	灰肥 病	炭そ 病
1	ハーバイン	5	73	43	8	38	52.2	0.60	43.8	9507	5	○	○
2	オヘリア	6	96	58	5	25	63.6	0.67	53.4	9503	1	○	○
3	シセル	6	95	65	5	38	48.6	0.76	67.3	9705	0	×	×
4	ルウェス	6	97	80	9	52	55.0	0.70	65.5	0407	0	○	○
5	ノルマ	5	76	62	7	39	52.6	0.74	58.2	9701	3	○	△
6	ロザモンド	6	97	60	6	41	53.8	0.74	63.0	9706	0	○	○
7	ロメオ	6	94	74	6	30	67.0	0.63	59.5	0407	0	△	○
8	ビクトリア S	6	83	71	7	42	43.4	0.77	48.5	9501	9	○	○
9	シルビア	6	92	75	6	56	58.3	0.66	52.5	9507	1	△	○
10	フィンランディア	6	93	57	6	32	59.1	0.60	56.5	2901	1	○	○
11	オベロン	6	89	60	8	47	52.5	0.70	61.5	8905	1	○	×
12	ファンシーオレンジ	5	90	37	5	22	56.6	0.75	55.9	0106	3	○	○
13	ハイドン	5	76	42	6	27	57.4	0.71	50.5	0106	2	×	×
14	エストレア	6	98	40	5	29	51.9	0.70	58.5	0106	2	○	○
15	ジュリア	6	93	56	9	45	42.2	0.75	62.1	9706	1	○	○
16	エスメラルダ	6	93	52	9	45	54.4	0.72	55.7	0106	1	△	○
17	スーパーオレンジ	5	94	59	6	22	43.3	0.72	57.9	0407	2	○	○
18	ビクトリア M	6	69	59	7	16	50.2	0.63	60.7	9708	5	○	○
19	ラベル	6	85	69	8	34	41.2	0.70	53.1	0106	2	○	○
20	マノン	6	98	43	9	32	62.3	0.68	52.2	9705	0	○	○
21	フォーナックス	6	38	56	6	31	55.2	0.69	59.4	0407	0	○	○
22	パッハ	5	84	49	6	25	61.9	0.74	51.9	8904	2	○	○
23	ヨハンシュトラウス	5	78	57	7	27	42.4	0.72	50.2	0407	0	○	○
24	リスト	5	73	47	6	37	53.3	0.71	55.2	9701	4	○	○
25	ベートーベン	5	71	78	6	30	43.2	0.67	67.5	9207	2	×	○
26	ボロディン	5	86	62	9	51	44.0	0.67	55.0	2901	0	○	○
27	レハール	5	89	39	5	27	43.5	0.74	61.9	9505	5	△	○
28	バーバーク	6	89	58	6	31	38.1	0.81	58.7	0407	1	○	○
29	ボフアイヤー	6	71	64	7	33	52.4	0.81	57.0	0407	0	○	○
30	ビクトリア T	5	88	67	7	31	43.2	0.77	57.0	9708	10	○	○
31	サモンスカーレット	6	90	44	5	20	44.5	0.84	69.2	0407	0	○	○
32	シュベルト	6	93	85	7	33	47.3	0.77	64.4	9505	6	○	○
33	フライングローズリア	5	92	59	6	32	36.1	0.69	65.9	9706	0	○	○
34	初代アホ	5	77	46	5	24	36.1	0.79	64.6	2901	1	○	○
35	スカーレットカール	5	81	45	5	14	35.2	0.75	66.6	0407	1	○	○
36	ローズピンクイザ	5	79	31	5	24	34.0	0.80	56.9	9505	0	△	○

注) ○: 通常管理で病気の発生を認めず、△: 治療可能な範囲で病気が発生、×: 一部の株が枯死

頁 数	誤	正								
目 次	4) 野 菜 作 3. ヤ マ ノ イ モ 5. セ ル 政 経 苗	3. や ま の い も 5. セ ル 成 型 苗								
7	2. 試 験 方 法 (1) 供 試 品 種 ユ サ カ タ、 ユ ミ ヨ シ タ キ イ 種 苗 ユ、 ユ サ ン ド	サ カ タ、 ミ ヨ シ タ キ イ 種 苗、 サ ン ド								
33	(担 当 者) 病 害 虫 防 除 所	病 害 虫 防 除 所								
48	第 2 表、 第 3 表 NO ₃ -N、 NH ₄ -N、 P ₂ O ₅ 、 K ₂ O 第 2 図 ~ 第 5 図 NO ₃ -N、 NH ₄ -N	NO ₃ -N、 NH ₄ -N、 P ₂ O ₅ 、 K ₂ O NO ₃ -N、 NH ₄ -N								
51	3. 試 験 結 果 及 び 考 察 の 上 の 空 欄 に 右 の 表 を 追 加	<table><tr><th>液 肥 窒 素 濃 度</th><th>窒 素 施 肥 量</th></tr><tr><td>25ppm</td><td>1.1kg/10a</td></tr><tr><td>100</td><td>4.2</td></tr><tr><td>400</td><td>16.8</td></tr></table>	液 肥 窒 素 濃 度	窒 素 施 肥 量	25ppm	1.1kg/10a	100	4.2	400	16.8
液 肥 窒 素 濃 度	窒 素 施 肥 量									
25ppm	1.1kg/10a									
100	4.2									
400	16.8									
79	タ イ ト ル マ ル ハ ナ バ チ の 使 用	マ ル ハ ナ バ チ の 利 用								
93	(1) 植 え 込 み 材 料 ク リ プ ト モ ス S _L 及 び	ク リ プ ト モ ス S 及 び								
95	(2) ベ ッ ト の 構 造 図 ± 1 3. 試 験 結 果 お よ び 考 察 (1) 表 ± 1	(2) ベ ッ ト の 構 造 図 - 1 (1) 表 - 1								